

論点整理表（令和3年度業務実績等）

	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等	担当課
1	全般	意見	<p>令和3年度の実務実績をみると、オンライン等を活用することで教室の収容人員やアクセスの悪さといった物理的制約がなくなり、学部と大学院の授業の一体化や、他大学主催の授業への気軽な参加・単位相互、希望する教職員全員の学外研修会への参加、オンライン入試や語学留学の実施など、新たな視点で大学の在り方を考えるきっかけの一年になったような気がする。令和4年度は、ウィズコロナの下で、従前の対面型スタイルに戻る面も多いと思うが、今後の日本における大学の在り方を考える上では、こうした新たな取組みをより充実させていくことが大事なポイントになると思う。</p>	<p>授業をはじめとする今後の大学運営については、対面を基本としつつも、オンライン（リアルタイム型・オンデマンド型）の利点および新型コロナウイルスの感染状況を考慮の上、教育効果、学生・教職員の利便性・安全性、業務運営の効率等を総合的に勘案しながら進めてまいります。</p>	学生課
2	全般	質問	<p>新型コロナ禍での学生・社会人に対する授業に関し、オンライン、対面での対応の全体像について伺いたい。</p>	<p>授業については、コロナ禍によりオンラインでの実施を余儀なくされたものの、主に講義系の授業科目については著しく教育効果を下げることなく実施することができたと認識しており、特に語学系の授業科目については、対面の形式で行うよりも効果が高い場合があるものと捉えています。また、オンラインの活用により遠方の専門性の高い講師から指導を受ける機会を作りやすくなった面もあり、学生の学びにつなげることができたものと考えております。</p> <p>一方、本学は芸術系の大学であり、実技を伴う演習系の授業科目も多く行われているため、実技指導のすべてをオンラインで行うことには限界があり、対面による授業形態が重要であることを再認識しております。</p>	学生課

	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等	担当課
3	2	質問	「成績評価に偏りがある教員」とあるが、具体的にどのような偏りがあったのか。	教員の成績評価について、①偏りが80%以上（優・良・不可等の評価が一つに集中）、②平均値が1.6未満又は3.4以上（不可を除く、秀4、優3、良2、可1）について成績の偏りと捉えています。なお、偏りがあった場合には、理由書の提示を求めています。	学生課
4	3	質問	大学院で実施される講義等への学部学生への参加の結果として、単位は取得できるのか。取得できるとした場合、大学院設置基準で認められる大学院入学前の単位として、認められるものなのか。	大学院の授業への学部生の参加は、新しい創造領域を開拓するための表現研究の手法と知識を学ぶ大学院の授業を体験してもらうことが主な目的であり、単位を取得することはできません。	学生課
5	5	質問	オンライン活用に関するノウハウ共有の具体的な方法はあったのか。	ZOOMを活用した授業の仕方や効果的なハイブリッド授業の手法（据え置きのみクスピーカーを使用）、回線トラブルで受講できなかった場合の対応（録画した動画のURLを未受講者へ案内）等のノウハウを共有しました。	学生課
6	8	質問	「現在本学で開講している外国語科目の課題」の内容はどのようなものか。	外国語科目として英語、韓国語、中国語、フランス語を開講しているが、留学や国際ワークショップ参加等に向けた実践型の教育プログラムが不足していることが課題であると捉えております。	学生課
7	8	質問	委員会での意見交換の結果、どのような成果が出たのか。	意見交換の結果、現状の外国語に関する授業科目のみでは、グローバル人材の育成は難しいため、留学や国際ワークショップ参加等に向けた実践型の外国語教育の必要性などについて認識を共有することができたことが成果であると考えております。	学生課
8	9	質問	令和3年度計画における「海外における語学研修制度の導入」は達成できたと思うが、参加者1名はあまりに少ないのではないかと評価をAとした理由は。	ご指摘のとおりの実績となりましたが、海外における語学研修制度の導入は達成していることから、「A」評価としたものです。 当該実績の要因については、実際に現地を訪れるのではなくオンラインでの実施となったことで、参加費の助成制度をもってしても学生の興味・関心を喚起するには至らなかったものと考えております。 なお、海外留学・海外研修参加者数の助成実績を数値目標に設定している連番63では、「C」評価としています。	国際交流センター

	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等	担当課
9	10	質問	「学生の満足度評価が著しく低い授業の担当教員」とあるが、「著しく低い」の程度はどのようなもので、これに該当する教員は何人いたのか。	「著しく低い」とは、授業アンケートにおける満足度の設問の平均点が5点満点中3.5以下を目安としており、令和3年度は、教員1名（後期のみ）が該当しております。	学生課
10	12	質問	評価をSとした理由は何か。	数値目標を設定した項目については、定量的な自己評価を基本としております。当該項目については、数値目標を上回る実績であったことを踏まえ、「S」評価としたものです。	企画課
11	12	質問	延べ206人というのは、全教職員の何%位に相当するのか。	全教職員の約40.4%に相当します。	企画課
12	16	質問	博士課程の入学定員（2人）について、入学辞退による定員未充足は以前にもあり、今後も生じる可能性があるが、大学として何か対応を考えているのか。	博士課程については、学生の専門分野や研究計画に加え、修士課程も含めた大学院全体の学生数と教員の指導体制のバランス等、様々な要因を考慮した上で受入可能な範囲内での合格者数としているため、辞退者の発生に備え定員を超える合格者を出すことはできない実情があります。今回は、入学手続きを行った後に辞退者が発生したのですが、今後は、辞退者が発生しないように、大学院の特色や魅力のPR、指導体制の一層の充実に努めてまいります。	学生課
13	18	質問	大学院の授業の受講は、内部進学者の確保という目的に役立ったか。	令和4年度の内部進学者数は、過去最高の6名となっていることから、大学院の授業の受講は、内部進学者の確保につながっていると捉えております。	学生課
14	20	質問	社会人の受け入れ体制を整備して、どうなったのか。体制だけ整えたのか、あるいは受け入れた実績があるのか。	長期履修生制度に関する申請、履修期間の変更および授業料の詳細等に係る取扱いを定めたことで、長期履修の期間短縮・延長を含めた手続方法が明確化されております。なお、本学の博士課程は、全て社会人であり、令和3年度も、社会人1人を受け入れております。	学生課
15	24	質問	退学者、休学者の最近の状況はどうか。	直近の状況は、次のとおりとなっております。 令和3年度 退学者4名、休学者24名 令和2年度 退学者5名、休学者18名	学生課

	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等	担当課
16	28	質問	学生の卒業研究作品の買取制度について検討するとあるが、最終的に制度を創設するのか。また、他の美術系大学の買取制度の状況はどうか。	今後は、洗い出した課題について検討を行った上で、制度の創設等について検討してまいります。 他の美術系大学の中には、優秀作品を買い取り、大学附属の美術館や保管施設で収蔵している事例もあるようです。	企画課
17	29	質問	秋田チーム「単独」とは、どのような形を言うのか。	「秋田チーム単独」とは、共同ワークショップへの参加大学のうち本学と国際教養大学の意です。	企画課
18	33	質問	学生に新型コロナによる経済的な影響はみられたか。また、コロナ禍を受けて大学が独自に実施した取組はあるのか。	アルバイト収入や仕送りの減少等の経済的な影響はあったものと考えております。 本学独自の取組はございませんが、国の給付制度を活用し、緊急的に102名の学生を支援（学生支援緊急給付金）したほか、日本学生支援機構の制度を活用し、延べ270名（2回募集）の学生におこめ券（3,500円分）を配付し、経済的な支援を行っております。	学生課
19	33	質問	81人は、全学生の何%位に当たるのか。	全学生の約18.5%（学部生437名）に当たります。	学生課
20	34	質問	学内外から買い取った優れたポートフォリオとはどういう意味か。	美大生として進路・就職活動に重要なポートフォリオの制作について、参考とすべきポートフォリオを常時閲覧できる環境を整え、学生の技能向上を図ることを目的に、次のポートフォリオの買い取りを実施しております。 1 本学の卒業・修了予定の学生の作品で、専攻・院から推薦があったもの 2 学外者（既卒者等）の作品で、キャリアセンター教員から推薦があったもの	学生課
21	35	意見	進路希望者以外に何人いたかわからないため、卒業生全体の数も記載してほしい。	令和3年度の学部卒業生数・大学院修了生数は、次のとおりとなっております。 学部卒業生：92人（うち83人が進路希望者、残り9人が卒業後に進路活動） 大学院修了生：8人（うち6人が進路希望者、残り2人が卒業後に進路活動） ※卒業後に進路活動を行っている理由は、本人の希望、卒業優先、心身不調等によるものです。	キャリアセンター

	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等	担当課
22	35	質問	進路未決定者に対するフォローアップはどのようにしているのか。	就職を希望しつつも、志望先からの内定獲得に至らなかった学生へのサポートは、学生の希望に応じて卒業年度の3月末まで継続しています。また、卒業後も問合せや支援要請には可能な限り対応しており、卒業生が自立して進路・就職活動を行えるようアドバイスや情報提供等を行っています。	キャリアセンター
23	36	質問	卒業生が制作した「企業製品」とはどのようなものなのか。	「企業製品」とは、等身大フィギュアなどの立体造形物を手がける国内最大規模の企業に就職した卒業生が、就職先の企業の製品として作成したものという意です。セカンダリーマーケットでも高値が付く人気があり、学生時代から、原形デザインや造形製作に取り組んできた力が発揮された製品です。	学生課
24	38	質問	「支援を必要とする学生」に対しては、学習面や身体的・精神的・経済的な支援などがあると思うが、その内容はどのようなものが見られるか。	保健師およびキャンパスソーシャルワーカーによる随時の学生相談を実施し、支援を必要とする学生の把握に努めている中で、特に支援が必要な学生に対しては、定期的な臨床心理士との面談の機会を設けており、学生宅への訪問を行うこともあります。また、保護者との面談、関係医療機関との連携等による学生への支援のほか、経済的支援として生理用品や食料の配布（フードバンク）も実施しております。	学生課
25	42	質問	評価をBとした理由は何か。科研費採択数が少ないからということか。	科研費等の外部資金の獲得は、第2期中期計画の重点戦略に掲げている事項であり、各種取組を展開しているところですが、科研費勉強会の受講率が27.9%であったことから、「B」評価としたものです。	企画課
26	43	質問	評価をBとした理由は何か。	数値目標を設定した項目については、定量的な自己評価を基本としております。当該項目については、科研費の申請数が数値目標を上回る実績であったものの、採択件数は数値目標を下回る実績であったことを踏まえ、「B」評価としたものです。	企画課

	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等	担当課
27	45	質問	実際に有給休職を利用した人はいるのか。実績はどうか。	平成27年度の制度施行以降、取得実績は4件（H27年度2件、H28年度1件、H30年度1件）となっております。 ここ数年は取得実績がない状況ですが、その要因として、本制度は他大学やこれに準ずる研究機関等の招へいを受けて行う活動であることや、国際交流又は大学間の国際的な人的交流に資する活動であることなどが取得の要件に含まれているため、コロナ渦による行動制限の影響も少なからずあったものと思われます。	総務課
28	46	質問	評価をBとした理由は何か。科研費採択数が少ないからということか。	【連番42再掲】科研費等の外部資金の獲得は、第2期中期計画の重点戦略に掲げている事項であり、各種取組を展開しているところですが、科研費勉強会の受講率が27.9%であったことから、「B」評価としたものです。	企画課
29	49	意見	小・中・高生向けのアートスクールのほかに、社会人をターゲットとした取組があってもいいのではないか。	子どもについてはスクール事業を実施している一方で、社会人については、多種多様なニーズに応えるため、ワークショップ、特別講義等を実施しているところです。	企画課
30	54	質問	「空き家レジデンスプロジェクト」の趣旨・目的は何だったのか。	本プロジェクトは、地域課題となっている空き家の利活用について、学生や教員の制作・展示の活動拠点として空き家を借り上げることで、活動環境の充実を図るとともに、地域社会へ貢献するという趣旨のもと、平成28年度から開始しているものです。	企画課
31	56	質問	評価をSとした理由は何か。	数値目標を設定した項目については、定量的な自己評価を基本としております。当該項目については、数値目標を上回る実績であったことを踏まえ「S」評価としたものです。	企画課
32	56	質問	秋田市域を超えた受託研究、受託事業も増えているとすれば結構なことである。 【資料5】秋田洋上風力発電株式会社との共同研究で「気候景観」「展示手法」とはどのようなことを言うのか。	秋田市外の自治体や企業等からの事案も徐々に増加しているところです。 「気候景観」とは、気候環境を直接的又は間接的に反映している景観の意で、例えば、偏形樹や防風林などです。また、「展示手法」とは、本研究が洋上風力発電施設も秋田の風が作り出す景観の一つと捉え、これを表現する手法の検討も目的としているという意です。	企画課

	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等	担当課
33	56-57	質問	小項目の評価をSとした理由は何か。	数値目標を設定した項目については、定量的な自己評価を基本としており、連番56の実績は、数値目標の1.5倍となっているため、小項目としても「S」評価としたものです。	企画課
34	60	質問	県外高校2校の高校名を知りたい。	次のとおりとなっております。 ・北海道おといねっぶ美術工芸高等学校 ・茨城県立笠間高等学校	学生課
35	61	質問	評価をSとした理由は何か。	数値目標を設定した項目については、定量的な自己評価を基本としております。当該項目については、数値目標を上回る実績であったことを踏まえ「S」評価としたものです。	企画課
36	63	質問	評価をCとした理由は何か。また、1人しか参加しなかった理由をどう捉えているか。	数値目標を設定した項目については、定量的な自己評価を基本としております。当該項目については、数値目標を下回る実績であったことを踏まえ「C」評価としたものです。 当該実績の要因については、海外への渡航ができず短期留学等を行う学生がいなかったこと、また、導入した語学研修制度もオンラインでの実施となったことで、参加費の助成制度をもってしても学生の興味・関心を喚起するには至らなかったものと考えております。	国際交流センター
37	64	質問	評価をBとした理由は何か。	英会話や実践英語のワークショップを開催したほか、国際交流プログラム支援事業を創設したものの、当該事業について教員からプログラムの応募がなく助成に至らなかったことから、「B」評価としたものです。	国際交流センター
38	65	質問	令和3年度計画における「海外における語学研修制度の導入」は達成できたと思うが、参加者1名はあまりに少ないのではないか。評価をAとした理由は。	【連番9再掲】ご指摘のとおりの実績となりましたが、海外における語学研修制度の導入は達成していることから、「A」評価としたものです。 当該実績の要因については、実際に現地を訪れるのではなくオンラインでの実施となったことで、参加費の助成制度をもってしても学生の興味・関心を喚起するには至らなかったものと考えております。 なお、海外留学・海外研修参加者数の助成実績を数値目標に設定している連番63では、「C」評価としています。	国際交流センター

	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等	担当課
39	66	質問	「炭焼きワークショップ」とは何か。秋田県立大学では、キャンパス周辺の松食い虫被害木を伐採して、炭づくりを行ってる学生グループがある。交流が考えられるようなものか。	シヴ・ナダル大学（インド）との共同ワークショップのテーマである「リペア」に関連し、能代市で実施したワークショップです。能代母体地区の炭焼きプロジェクトの方々から炭焼きの作り方を学び、体験しながら、木や炭の「リペア」について学んだほか、檜山納豆の工場見学なども行い、本学と国際教養大学の参加学生が交流を深めたものです。	企画課
40	67	質問	実施できなかった海外での研究活動や作品発表等は何件くらいあったのか。	中止等の報告が任意で2件寄せられていますが、特段、調査を行っていないため、全体数は把握しておりません。	国際交流センター
41	71	質問	入試と教務を所掌する委員会の統合の趣旨と効果を伺いたい。	本学では、学部と大学院の一貫した学びを共有し、内部進学者の確保や研究指導体制の充実を図っているところであり、更なる連携強化を図るため、学部と大学院の入試委員会を統合し、また教務委員会も同様に統合したものです。学部と大学院の教員が同じ会議で協議し意思決定をすることで、一体的な運営の推進や情報共有の円滑化が図られたと考えております。	総務課
42	72	質問	「支援を必要とする学生」に対しては、学習面や身体的・精神的・経済的な支援などがあると思うが、その内容はどのようなものが見られるか。	【連番38再掲】保健師およびキャンパスソーシャルワーカーによる随時の学生相談を実施し、支援を必要とする学生の把握に努めている中で、特に支援が必要な学生に対しては、定期的な臨床心理士との面談の機会を設けており、学生宅への訪問を行うこともあります。また、保護者との面談、関係医療機関との連携等による学生への支援のほか、経済的支援として生理用品や食料の配布（フードバンク）も実施しております。	学生課
43	73	質問	将来構想検討WGの報告内容は非常に重要だと思います。特に、情報センター構想の趣旨について伺いたい。	情報センターは、情報システムがすべての教育・研究活動および大学運営の基盤であることから、保有する情報の保護と活用および適切な情報セキュリティ対策を図り、情報関連環境を整備するため設置したものです。	企画課 総務課
44	79	質問	評価をSとした理由は何か。	【連番12再掲】数値目標を設定した項目については、定量的な自己評価を基本としております。当該項目については、数値目標を上回る実績であったことを踏まえ「S」評価としたものです。	企画課

	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等	担当課
45	84	質問	評価をBとした理由は何か。科研費採択数が少ないからということか。	【連番42再掲】 科研費等の外部資金の獲得は、第2期中期計画の重点戦略に掲げている事項であり、各種取組を展開しているところですが、科研費勉強会の受講率が27.9%であったことから、「B」評価としたものです。	企画課
46	85	質問	評価をBとした理由は何か。	【連番43再掲】 数値目標を設定した項目については、定量的な自己評価を基本としております。当該項目については、科研費の申請数が数値目標を上回る実績であったものの、採択件数は数値目標を下回る実績であったことを踏まえ、「B」評価としたものです。	企画課
47	86	質問	評価をSとした理由は何か。	【連番56再掲】 数値目標を設定した項目については、定量的な自己評価を基本としております。当該項目については、数値目標を上回る実績であったことを踏まえ「S」評価としたものです。	企画課
48	87	質問	評価をBとした理由は何か。	自己収入の確保に向けて、他大学の取組に関する情報収集にとどまり、これを踏まえた取組に関する検討に至っていないことから、「B」評価としたものです。	総務課
49	108	質問	ハラスメント防止に対する自己評価がCであるのはなぜか。記載振りを拝見すると、AやBでも良さそうな印象だが、相談案件の調査、審議に何か問題があったのか。	ハラスメント防止に向けて学内研修の充実等に取り組んでおりますが、令和3年度中にハラスメント事案が発生したことに鑑み、「C」評価としたもので、事案への対応に瑕疵等があったものではありません。	企画課 総務課
50	108	質問	評価をCとした理由は何か。	ハラスメント防止に向けて学内研修の充実等に取り組んでおりますが、令和3年度中にハラスメント事案が発生したことに鑑み、「C」評価としたものです。	企画課 総務課
51	財務諸表	質問	財務諸表P2の損益計算書の当期総利益(113,230,422円)と、決算報告書における収入-支出の額(112,163,862円)は一致していないが、その違いは何か。	損益計算書は発生主義による記載となっております。一方、決算報告書は予算に対する執行額を現金主義で記載するものであり、それぞれの表により記載内容が異なりますので数値が一致しないものです。なお、他大学も同様に一致はしていません。	総務課

	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等	担当課												
52	財務諸表	質問	附属明細書の3. 貸付金等に対する貸倒引当金の明細で、未収学生納付金収入の貸倒引当金の現時点での回収可能性の状況と、回収に向けた今後の取組は。	未収学生納付金収入の貸倒引当金にあたる対象者は1名です。状況としては催促をしているものの、連絡がとれず回収の可能性は極めて低いものとなっております。今後の取組としては、債権管理規程に従い債権放棄を行い、令和4年度中に貸倒損失として計上する予定であります。	総務課												
53	財務諸表	質問	「図書」は除却時に全額を費用処理していると思うが、その際の勘定科目は何になるのか。	図書費で処理しております。	総務課												
54	財務諸表	質問	例年以上に目的積立金が増えるが、現時点で、使途計画はあるのか。	現時点で使用が決定しているのは、令和4年度予算で取崩し予定としている次のものです。 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">教育設備等整備経費への充当</td> <td style="text-align: right;">14,100千円</td> </tr> <tr> <td>内部統制システム構築の助言指導業務</td> <td style="text-align: right;">1,562千円</td> </tr> <tr> <td>情報センター設置経費</td> <td style="text-align: right;">2,661千円</td> </tr> <tr> <td>学生用ロッカー更新経費</td> <td style="text-align: right;">4,639千円</td> </tr> <tr> <td>開学10周年記念事業準備経費</td> <td style="text-align: right;">14,383千円</td> </tr> <tr> <td>総計</td> <td style="text-align: right;">37,345千円</td> </tr> </table>	教育設備等整備経費への充当	14,100千円	内部統制システム構築の助言指導業務	1,562千円	情報センター設置経費	2,661千円	学生用ロッカー更新経費	4,639千円	開学10周年記念事業準備経費	14,383千円	総計	37,345千円	総務課
教育設備等整備経費への充当	14,100千円																
内部統制システム構築の助言指導業務	1,562千円																
情報センター設置経費	2,661千円																
学生用ロッカー更新経費	4,639千円																
開学10周年記念事業準備経費	14,383千円																
総計	37,345千円																
55	決算報告書	質問	収入における寄付金収入（予算額0円、決算額900,000円）と支出における寄付金事業（予算額0円、決算額1,586,027円）の関係はどうなっているのか。また、関係しているとすれば、収入を超える支出を行ったということか。	収入における寄附金収入と支出における寄附金事業の差額（686,027円）が生じているのは、寄附金を財源としていないFA基金の準備経費を支出に計上しているためです。	総務課												